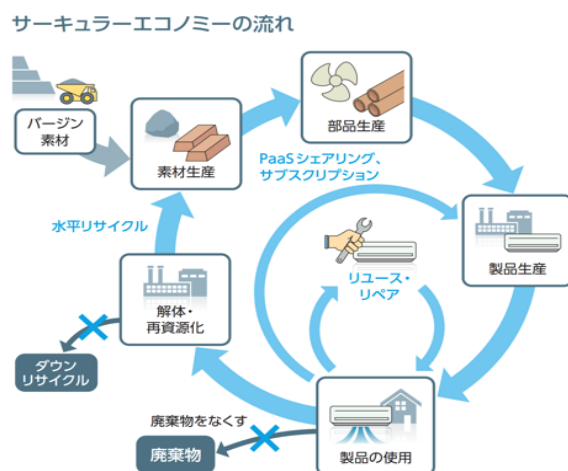


循環を前提とした製品設計で耐久財に求められる高い基準をクリアする再生材採用を進める

空調機器と冷媒の両方を製造する世界唯一のメーカーとして、循環を前提とした製品設計とサービス導出を行ない、ライフサイクル全体を通じて環境負荷の低減に取り組む。グループ環境基本方針を定めて環境への配慮と対応を推し進める中で、資源の有効活用にも積極的に取組を展開。



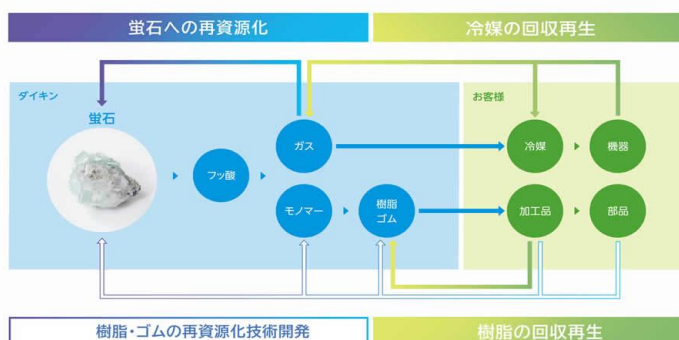
* 空調部門においては、「うるさら X」をはじめとする空調製品に対して、室外機の配管カバーや室内機内部の樹脂部品などの汎用樹脂部品（PP、HIPS、ABS、ASG）の一部から、再生材の評価・採用を順次進めている。



* 使用後の製品からの再生材の採用と並行して自社工場内の樹脂成型から出てくる廃材にも着目し、中間処理メーカーやコンパウンドメーカーと協力して再生樹脂部品や再生樹脂ペレットの形にして自社に戻し、再生樹脂の適用拡大の取組を進めている。

* 化学事業部では、フッ素の資源循環の取り組みとして、フッ素樹脂の成型加工工程における廃棄物や切削クズを回収し、再生ペレットにして販売。工業分野で使用されるパッキンやシール材、チューブ、パイプ用素材に生まれ変わっている。

フッ素の資源循環の取り組み



背景・きっかけ

* グローバル企業として社会からの期待や要請が増す中、2018年「環境ビジョン 2050」を策定。2021年にはサステナブル社会へのさらなる貢献を追求する戦略経営計画「FUSION25」を策定し、マテリアリティの見直し、新たな目標設定を行なった。



取組のポイント

▶ 資源循環と品質・経済合理性の両立を見通した製品設計

- * 再生材の利用についての社内プロジェクトを立ち上げ、協力業者の調査や部品開発を実施。
- * 再生材は商社やメーカーからの紹介に加え、足を使って見つけ出した調達先からトレーサビリティを確保できる材料を指定し商社経由で仕入れ。
- * 自社の高い製品品質に耐えうる素材であることを前提に、バージン材と再生材の両方の素材が使えるように自社製品の金型設計を行なうことで、経済合理性も考慮しながら材料選定ができるよう工夫している。

今後の展望

▶ グローバル市場に対応しながら再生材の調達、利活用にかかる技術向上に取り組む

- * バージン材と同等の品質担保・経済合理性も考慮しながら、グローバルに展開する中ではヨーロッパの基準等にも準拠するべく、現在も社内での再生材調達基準の整理を進めている。
- * 廃棄物の抑制に加えて資源をできるだけ長く活用できるよう、ダウンリサイクルから水平リサイクルに向けた技術の向上にも積極的に取り組んでいく。

参考ページ

ダイキン工業 HP (<https://www.daikin.co.jp/csr/environment>)

企業概要

ダイキン工業株式会社

所在地 大阪市北区梅田 1-13-1 大阪梅田ツイン
タワーズ・サウス
資本金 85,032,436,655 円
事業内容 空調・冷凍機、化学、油機、特機、
電子システム